



耕地防風保安林の整備に向けた取組について

北海道森林管理局 網走南部森林管理署

管内概要 北海道森林管理局 網走南部森林管理署

網走南部森林管理署は、北海道北東部、オホーツク海の南東側に位置し、北東の知床半島知床岬から南西の阿寒湖の北側にある津別町までの7市町に所在する約14万haの国有林を管轄しています。

管内には、世界自然遺産に登録されている知床国立公園をはじめ、阿寒摩周国立公園、網走国定公園、斜里岳道立自然公園に指定されている区域があり、小清水原生花園、神の子池、小清水高原（藻琴山）、美幌峠、知床峠、斜里岳、羅臼岳などの風光明媚な観光地も数多くあります。

署の所在地

北海道斜里郡小清水町南町1丁目24-21

管轄区域の関係7市町

網走市、斜里町、清里町、小清水町、大空町、美幌町、津別町

7市町区域面積 339,665ha

うち森林面積 218,032ha

うち国有林面積 135,867ha



◆防風保安林の整備に向けて

防風保安林は、風の強い地域で、田畑や住宅に沿って森林を帯状に配置することにより、人々のくらしや農作物へ吹きつける風を和らげ、被害を防ぐ役割を担っており、管内の国有林には、延長14.6km、面積1185haの防風保安林があります。

この防風保安林ですが、近年、風倒被害が増加するとともに、林縁部の枝が農地へ張り出し、日陰における農作物の日照障害や、大型農業機械の走行やICT機能を有する農業機械の通信障害等が発生し、地域の農作業に様々な影響を及ぼしており、解決を求める要望が多く寄せられています。

当署では、防風保安林の機能維持と地域の方々の要望を調整を図るため、専門家、地元の自治体をはじめ、関係者と意見交換を行い、その対策を検討しました。この結果、防風保安林の林縁部を一定の幅で伐採し、その跡地に防風保安林の整備を行うための管理用道路を作設することになりました。

令和3年度に清里町で、試行的な管理用道路を整備しました。当地

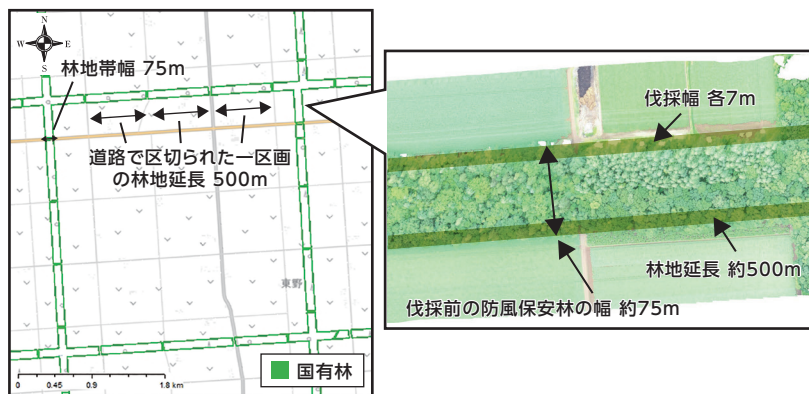


図 防風保安林の試行的な整備(イメージ)



写真1 農地へ張り出した林縁部の枝



写真2 施工の様子

は、昭和7年に東西方向に植栽されたヨーロッパウヒ（ホワイトウッド）を主とする林分で、林帯幅約75m、長さ約500m（東西方向）となっています。南北の林縁部をそれぞれ幅7m伐採し、幅員4mの管理用道路を設置しました。

隣接する農地の所有者に承諾を得て、冬の農閑期に林縁部の立木を伐採・販売し、その後、路面を整備しました。隣接地が農地のため、路盤材に砂利の代わりに飛散しても支障の少ない火山灰を使用しました。

防風保安林の整備から1年経過しましたが、目立った倒木は発生して



写真3 完成した管理用道路

おらず、防風機能の発揮に影響はないと考えられます。管理用道路は、林地へのアクセスを容易にするとともに、隣接農地との緩衝帯となり、防風保安林の日照や通信の障害の影響も軽減でき、地域の農家からも喜ばれています。

◆ 今後の対応

防風保安林の試行的な管理用道路整備の結果が良好であったことから、計画的に整備を進めるため、現在、防風保安林の現況調査を実施しています。調査では、立木の調査や無人航空機（ドローン）を活用した林相把握、希少動植物の生育・生息を確認する環境調査、隣接区域の建物等の有無、地形・地質・土壌・気象・風速・風向き等について確認し、その結果から、管理用道路を整備する優先順位を決定しています。また、現況調査の結果から状況によっては間伐等による密度調整の要否についても検討していきたいと考えています。

当署では、これからも広大な防風保安林の機能の維持・向上のため、地元の自治体、農業関係団体との情報共有と協力体制を構築して、持続的な管理に取り組んでまいります。



写真4 防風保安林のドローン画像